



例会日 毎週水曜日 12:30～ 例会場 ホテルシーズン日南
 住所 日南市園田 3-11-1 TEL 0987-22-5151 FAX0987-22-9588 会長 竹井崇利

経済と地域社会の発展月間・米山月間

第 3176 回例会	No.16	2018. 10. 24	晴れ
点鐘・国歌・ロータリーソング	12 時 30 分 「それこそロータリー」		
四 つ の テ ス ト	榎木田大資 君		
ゲ ス ト	水居 徹 氏 (宮崎アカデミーRC 副幹事)		
例 会 行 事	ゲスト卓話		

会長時間

カレー三種の神器は、タマネギ、ニンジン、ジャガイモで、タマネギとジャガイモは北海道と関りが深く、札幌農学校の寮では一日おきにカレーがでている。

【目で食べる日本人】

タマネギの白、クリーム色のジャガイモ、オレンジ色のニンジン、漬物（福神漬）をセットにしたアイデア、しかも福神漬の赤、日本のカレーブームの原点である。カレーライスに生卵とソースをかける食べ方は関西である。大阪の「自由軒」の名物である。「自由軒」は、明治 43 年の開店である。福神漬がカレーライスに添えられるようになったのは、明治 35 年頃、日本郵船のヨーロッパ航路の船の一等食堂が最初だったそうです。二等、三等食堂は沢庵を添えていた。

カレー丼、カレーうどんは大阪生まれで、誕生は明治 41 年のことです。こうしてカレーライスはカツカレー（大正 7 年生まれ）やカレーパンと大きく羽ばたいていった。カレーパンの誕生は昭和 2 年であった。カレーパンは水分が多いため、油で揚げることになった。当時は油で揚げるのがハイカラであった。日本人は西洋料理を様々な形で取り込み、日本人好みの味付け、盛り付けに変えてきた。カレー粉の輸入は明治 30 年後半で、その後は固形カレールウが登場。粉から使いやすい固形へ。カレー業界にとっては大飛躍である。ハウスパーモントカレーは昭和 38 年に誕生した。

食生活が洋風化に大きく貢献したもののひとつはインスタントブームがある。インスタントコーヒーの輸入許可が昭和 31 年であった。日清のチキンラーメン発売が昭和 33 年であった。昭和 44 年は大塚食品から初のレトルトカレー「ボンカレー」が登場。「三分間待つのだぞ」の CM は一世を風靡した。

【レトルト時代】

初のレトルトカレーが生まれると世の中はレトルト時代を迎える。昭和 46 年にはハウス「ククレカレー」またこの年には「カップヌードル」は発売。銀座に「マクドナルド」1 号店の誕生。ファストフード、インスタント食品が注目を集めはじめた。

「ライスカレー」か「カレーライス」か？

明治から大正にかけては「ライスカレー」、「カレーライス」は昭和の時代になり変わり始めた。作家の吉行淳之介は、西洋の香りを残したものをカレーライス、日本風にアレンジしたものをライスカレーと区別した。カレーライスのように、料理の後にライスが続くメニューは、他にもハムライス、チキンライス、ハヤシライス、オムライス、トルコライスなどがある。このように〇〇ライスと呼ばれるものは、いずれも混ぜご飯感覚で食べられる。

【西日本と東日本の違い】

大阪はビーフカレー、東京はポークカレーが主である。大阪ではビーフが 80%ポークは 10%である。

【味のガンジス】個人的に好きなカレー屋さんです。宮交シティ内で宮崎市内の老舗です、

昭和 37 年、宮崎空港ターミナルビルのレストランカレーが人気メニューとなり、昭和

48年にカレー専門店「味のガンジス」としてオープン「レトルトカレー」も販売

【海軍カレー】

海軍軍医の高木兼寛は、海軍における病死の原因は白米主食中心の栄養のバランスが悪い食事が原因と考えた。日露戦争当時、海軍は肉と野菜が両方とれるバランスの良い食事としてカレーライスを採用した。その後カレーライスが海軍の中で普及し、脚気の解消に成功した。また、材料のうち、調味料を砂糖と醤油に変えると、そのまま「肉じゃが」になる。そのため、補給面でも具合がよく、軍隊食として普及した。現在でも海上自衛隊では、毎週金曜日はカレーライスを食べる習慣になっている。同じメニューを食べることで、長い海上勤務中に曜日感覚をなくさないようにするためである。

【ご当地カレー】

国民食カレーライスを使った「街おこし」が全国で展開されています。地域の食ブランドを新たに作り出そうと考えた時、カレーは魅力的な食材です。また、カレーは嫌いというが少ないグルメで、メニューも容易です。

ご当地カレーベスト5位は、一位 横須賀市「海軍カレー」、二位 札幌市「スープカレー」、三位 呉市「海軍カレー」、四位 金沢市「金沢カレー」、五位 北九州市「焼きカレー」、因みに、宮崎は「チキン南蛮カレー」「宮崎牛カレー」などがあります。

幹事報告

1) 国際ロータリー第2730地区直前ガバナー事務所閉鎖のお知らせが届いております。

スマイル

石灘寛樹君 10/21は飢肥城下祭りでした。前日はJCの先輩方の長寿祝いで、かなり深酒をしたので、踊れるか心配でしたが、むしろ、ことのほか体の切れが良く気持ちよく泰平踊を、踊れました。

例会行事

ゲスト卓話 「特定失踪者とは」 水居 徹 氏 (宮崎アカデミーRC)



父と私

宮崎県宮崎市神宮西町、ここが私の生まれ育った土地です。今も、そこに住んでいます。宮崎神宮の西側、総合文化公園の北側になりますが、祖父の代まではそこで野菜、後に花の生産者、農家をしていました。祖父母には二人の娘がいましたが、次女の千恵子は終戦の年に風邪をこじらせて亡くなり、長女一人となり、それが私の母になります。

私の父は三股町出身で、7人兄妹の次男として生まれ、都島高校(現都城農業)を卒業後、久留米で農業技術を学びましたが、就職難で、宮崎市内で求職活動をしていたようです。

母との見合い話があり、次男であった父は養子の道を選びます。いったん養子となった上で母と結婚しました。ただ、職は見つからず、祖父の手伝いをしていたようですが、延岡市の東延岡農協(現JA延岡)に就職することになり、延岡市出北に赴任します。住まいは農協の官舎のようなところで、トイレは事務所と共用、風呂もない小さな家だったと思います。父は仕事を最優先にしていました、もの心ついてから、父と遊んだ記憶がありません。その後、宮崎市農協(現JA宮崎中央)に空きが出たため、宮崎の実家に戻りました。祖父母、両親、第二人の7人での生活が始まります。父はJAの職員として働き、農家との付き合いを大事にしている、日曜日には、私も農作業の手伝いに連れていかれました。父とのふれあいとしてはそのような記憶しかありません。今でも当時を知る農家さんは父のことを懐かしく話してくれます。当時、農家の農地転用でアパートを建てる事業を農協が始めました。父は独学で宅建業の免許を取り、農協の企画管理課で農家のアパートを建てる担当になります。その頃、建設業者が夜訪ねてくることも増えました。一度はある工務店が封筒を置いていき、中身は現金で、あわてて母親が返しに行くということもありましたが、結局、収賄を疑われ、一度は解雇されます。後に疑いは晴れ復職しますが、依願退職します。退職後、不動産業をはじめ、農家のアパート建設を中心に、宮崎ガスの移転など、難しい不動産案件を担当することになります。

私は7人家族の中で高校を出て、名古屋の大学に入ることになりましたが、今、思うと、大家族で本当に普通の、平凡な家だったと思っています。大学に入ってから電話のやりとりもほとんど母親でした。帰省しても、父は仕事優先、夜は食事が済むと寝てしまうという生活だったので、あまり会話等をしたという覚えがありません。私が小学生の頃に父親が釣りに連れて行ったことが何度かあるのですが、下手くそであり釣

果はなくつまらないため、一緒に行く事がなくなりました。そうなるとうちも釣りをやめてしまったようです。父はアパート建設の中で大建工業の林田社長と知り合い、再び釣りに行くようになり、不動産会社や電気工事会社など5人の社長で共擁丸という船を保有します。その5人の中でも父と林田さんはほぼ毎週釣りに行く関係になっていたようです。私も学生時代と社会人になってから2度ほどその船で釣りに行っています。そのような普通の家族に突然変化が訪れます。

母からの電話

1988年7月18日は月曜日でした。当時私は東芝でパソコンの営業推進部門にいて、7月15日は福岡で展示会を実施、翌16日は家電販売会社等と福岡でゴルフをおこない、私はその後、久しぶりに宮崎に戻るつもりでしたが、同僚たちと一緒に東京に戻りました。その際に福岡空港で宮崎の実家に電話をしました。電話は父親が出ましたが、すぐに母親に代わってくれといったため、父との通話は「あ、ちょっと待って」で終わりましたが、それが最後の会話となりました。7月17日は自宅で飲み会があり、翌18日の月曜日は二日酔い気味で入社し、昼前に昼食を兼ねて秋葉原の販売会社を訪問することにしていたのですが、母から会社に電話が入りました。会社に電話をしてくることはありませんでしたので、驚きましたが、母からは父親が釣りに出て行って帰ってこないとの連絡でした。たぶん、問題はないと思うけれど、という母の声に胸騒ぎがして、私は宮崎に帰ることにしました。羽田発の飛行機が着陸に向けて高度を下げますが、好天気で海もまったく波のないような状況でした。なんでこんな感じで遭難するんだろうと不思議でした。それから約1ヶ月の捜索が始まります。いろいろな情報が入ります。砕石船とぶつかっただとか、鯨にアンカーを引き込まれたとか、ひとつひとつ情報源の方にお会いして確認します。その中でも日向市の製糖工場の工場長が着陸する飛行機から、水面ぎりぎりの沈船を見たとか、青島沖で東に向かうプレジャーボートを見たという情報は有力かと思われましたが、沈船は魚の群れ、東に向かうボートは3名が乗っていたので違うという結論を出しました。消防団と親戚、友人が宮崎県の海岸線を捜索しましたが、何も出ず、西日本の漁協にファックスで照会をしました。結局、何も情報はありませんでした。油津の海上保安庁には2日に1度訪問し情報交換をしていましたが、捜索打ち切りの報告を受けた時には、来る日が来たという気持ちになりました。日向市沖57kmで救命胴衣が見つかりましたが、はたしてそれが共擁丸のものかは確認されませんでした。

水居家の変化

その8年後に家裁に申し立て、死亡宣告を受け、葬儀を行いました。母はその後、弁当屋をはじめます。弟たちも東京に出ました。祖父母と母という3人での生活が始まります。その後、祖父、祖母が亡くなり、平成16年には母が交通事故で、翌年には私の次弟が、その5年後には末弟が病気で亡くなります。7人家族は私一人になりました。私は東芝をやめ、会社を設立します。やりたいことをやりたいというのもありましたが、独立すれば、宮崎にしょっちゅう帰ることができるという気持ちもありました。父の失踪をきっかけに水居の家は大きく変化したような気がします。

特定失踪者

昨年、特定失踪者家族会が結成されました。私も幹事の一人です。同じ境遇の方々と話をするとみなさんも失踪をきっかけに大きく人生が変わったといわれます。

特定失踪者とは、北朝鮮による拉致の可能性を排除できない失踪者を指す言葉です。現在日本政府が認定している拉致被害者は17名に過ぎませんが、実際はそれより遙かに多くの人々が拉致されています。特定失踪者問題調査会はその特定失踪者について調査し、救出を目指す民間団体です。特定失踪者は400名以上となり、警察庁が発表した不明者はさらに400名ほど多い800名以上になります。特定失踪者は拉致被害者と思われる方々です。拉致の可能性を否定できない、あるいは濃厚な人ということになります。特定失踪者問題調査会は平成14年から「救う会」から独立する形で結成されました。調査会は失踪者の状況ヒヤリングや現地調査を行い、1件1件を精査し、失踪者をリスト化していきました。そのうち約80名は疑いが濃厚ということで1000番台として区分されています。私の父と林田さんもその中に入っています。

鹿児島でも

宮崎県には特定失踪者が4名、鹿児島も1000番台の4名と拉致被害者が2名います。鹿児島の特定失踪者の家族の方と話をしましたが、大崎町の園田さん夫婦は娘を宮崎空港に迎えに行く途中で車ごと不明になります。鹿児島県霧島市出身の田中正道さんは働いていた千葉で失踪しますが、その前年に、里帰りした際に、フェリーで知り合った男の車で青島に寄ってから帰宅しています。その際にその男は写真が趣味ということで、田中さんの甥や姪を写真に収めていますが、集合写真ではなく、ひとりひとり撮影しているのに田中さんの妹さんは不審に思ったそうです。最近、手口として知られているのが、親族の写真等を見せ、その人に被害が及ぶと脅かして拉致するということです。田中さんもそのような状況だったかもしれませんし、わざ

わが青島を見ていることも不思議です。日向でフェリーを降り、霧島市に行くのに、当時は10号線もしくは269号線を使うと思われませんが、平成5年の青島はわざわざ見に行くような場所であったかどうかです。特定失踪者には一定の傾向が見られます。職業が偏っています。印刷工、機械工、医療関係者、通信工事関係者などです。拉致被害者はアベックも多く、偶発的に拉致されたと思われることが多いのですが、調査会では、あらかじめ調査をした上でその人を狙ったと去れる方が多いと見ています。技術がなければ連れてくるという感じがします。北朝鮮側は日本も朝鮮人を日本に連行して働かせた歴史があると言っていますが、これは反面、拉致を認めているのではないのでしょうか？

宮崎での実態

宮崎県内でも多くの失踪者がいます。私の父親が1988年7月17日に失踪していますが、2ヵ月後の9月19日（18日深夜）に南郷町の和田幸二さん（当時31歳）が失踪しています。カツオ漁船「第58福徳丸」の船員だった幸二さんは義兄と共に宮城県の気仙沼で漁を終え、外浦港に帰りお盆休みを地元で過ごしていましたが、8月19日の夕方には出港予定でした。幸二さんの姉、京子さんに話を聞きましたが、帰省して、車好きな幸二さんは、たまたま中古車屋に行き、トヨタマークIIを気に入ったようです。中古車屋は休みの間だけ乗ればいいと貸してくれたそうです。幸二さんはこの車と一緒に失踪していて、京子さんが車の代金を払います。目井津在住の幼馴染から誘われ、外浦港近くのスナックに行きます。幸二さんは酒を飲まないで、その車で行ったようです。その後、南郷駅前のうどん屋に歩いていきます。うどんを食べた後に、また歩いて帰り、スナックに停めていた車で目井津の友人を送り、外浦方面に向かうところが最後の目撃談になります。現在、幼馴染は行方がわかりません。スナックも閉店しています。中古車屋もありません。疑問は飲酒しない幸二さんがなぜ歩いて駅前に行ったのか、片道30分はかかります。また、うどん屋かスナックに向かう道で二人の男にあとをつけられたという若い女性二人が翌日交番に届けを出しています。その二人の一人はえびのの加久藤が現住所だったということで、京子さんはしばらく加久藤に出かけては、弟がいなか車で巡回していたそうです。

土台人という言葉があります。朝鮮語ではドデインと読むようです。日本にいる北朝鮮の協力者です。協力者ですが、土台の名のとおり、決していいポジションではありません。北朝鮮にいる親族を収容所に送る、あるいは殺すと脅かして言うことを聞かせます。ある時期から拉致が少なくなったのには、この親族が年齢的にもいなくなったこともあるかもしれません。仮説ですが、外浦のスナック、駅前ではなくなぜここにあるのか。造船所跡地があり、内湾があります。ゴムボートで容易に出入りできるようなところのすぐ近くです。幸二さんはここで拉致されたのではないかと。うどん屋には行ったという証言があります。普通で考えれば、スナックから駅前には車でいくはずですが、幸二さんはうどんの後、忘れ物とかでスナックに戻り、そこで拉致されたのではないかと。幼馴染は土台人の一人ではなかったのか？若い女性二人も足取りを裏付けるために交番に行ったのでは。この造船所跡地には北朝鮮とも関係の深いといわれている人が自家用ヘリを違法に離着陸させていたいとい情報もあります。

岩本美代子さんは平成7年11月5日に失踪しています。佐土原町の人で、石崎浜荘（現石崎の杜 鯨鯨館-ホエルカム-宮崎市佐土原町下那珂）近くの海岸手前の松林に自家用車が放置されていたそうです。彼女は当日、男性とドライブに出かけます。フェニックス動物園の駐車場で待ち合わせ、彼の車で県北方面に出かけますが、日向大橋（新富と佐土原の間、一つ瀬川）あたりでけんかとなり、動物園に戻り、そこで彼と別れます。その後行方不明となりますが、車は動物園から3kmほどの海岸で見つかります。車は鍵が付いたままで、車内にはウイスキーが撒かれボトルがあり、箱には彼女の衣服が詰め込まれていた。彼女は酒を飲まないのに一説には誕生日祝いで贈られたというのです。当日祖母にはがきの投函を頼まれましたが、そのはがきは鶴戸郵便局の消印でした。また、彼女のカメラが日向市近くの質屋で見つかっています。彼は当時警察からアリバイを確認され、容疑はかからなかったそうです。結局、警察は入水自殺としています。11月11日に天皇皇后両陛下が宮崎に行幸されており、厳戒態勢をしいていたと思われます。逆にその中でこのような事件が発生しているとなると責任問題も考えたのではないかとおもえます。動物園駐車場から北へ出発し、途中、すぐに放置現場に向かい、そこに待機していた複数のスタッフが拉致、海上へ向かったのではないのでしょうか？彼はそのままアリバイ工作に向かい、日向大橋で引き返す時間の後のアリバイを作ったのではないのでしょうか？

独身の男女が狙われるケースは多くあります。女性の場合は離婚経験者や子供のいる人が多いといわれています。これも仮説ですが、北朝鮮で拉致された日本人同士を結婚させていたようで、男性がいたら女性を拉致して連れてきて結婚させるということがあったのではないのでしょうか？

宮崎ではほかにも拉致の可能性のある方々います。日向の海岸ではスタッフが逮捕された元もあります。宮

崎の上陸は朝飯前という証言もあるそうです。政府は拉致問題解決と言っていますが、正直期待をしていません。というか何度も期待をして裏切られるという思いをしていますのであきらめ気味な部分もあります。

特定失踪者家族会の役員同士で話をしても、対話での解決は無理と思っています。とにかく時間がないうです。父親は昭和11年生まれですので生きていけば82歳です。家族会のメンバーも70代の方が多く、あと10年は活動できないと思われます。

政府は時間切れを待っているのではと、思う人も多いのです。北朝鮮の利権を持った人が政治家にいます。その利権を保有し続けるためには北朝鮮との関係を維持する必要があります。個人的には斬首作戦しかないと思っています。斬首もしくはクーデターで体制が変わらない限り解決は無いと思います。クーデターが起きて、金親子を拉致の犯罪者と位置づけて新体制が平和的な関係を日本と持つということが北朝鮮にとっても最良だと思いますが、クーデターの可能性は低いとも言われています。

いずれにしろ、みなさまがこの問題を認識されて、政府等に一緒にアピールいただくことがわれわれの力となります。とにかく時間がありません。引き続きご理解ご支援のほどどうぞよろしくお願いいたします。

出席率報告

	会員数	出席免除	出席定数	HC出席	MU	欠席	出席	出席率
先々週10/10	35	2	33	20	13	0	33	100%
今 週	35	3	32	26	5	1	31	93.93%
出席免除	村上、古澤、渡邊							
先々週MU	石灘、榎木田、菊池、桑村、小玉、阪元、清水、豊田、日高、古里、村岡、村社、渡邊							
先取MU	濱砂、村社、菊池、清水、松尾							
欠 席	古里							

事務局 〒887-0001 日南市油津3-11-17 油津海友会館2階 TEL0987-22-3363・FAX0987-22-3515

会長：竹井崇利 副会長：山口秀一 幹事：山口秀一 雑誌会報広報委員長：河野通郎

雑誌会報広報委員会より 原稿は、ocame@wing.ocn.ne.jpまで送信してください。